

(4) ロールプレイ

「海辺村の未来を考えよう」

1 ねらい

原発事故についてさまざまな立場や考え方があることに気づき、他者への理解を深める。

2 準備物

役割カード

3 活動の流れ

〈条件設定〉

海辺村は、地震と津波のため海岸部では大きな被害を受けた地域があるが、内陸部はほとんどその被害を受けなかった。しかし、海岸部にあった原子力発電所の爆発で、村が放射線の汚染で多くの問題を抱えることになった。村民には村を離れた住民、村に残る住民、強制移住をさせられた住民がいる。今後、村に戻り、村の復興に努めたらよいか、村には戻らず別の道を探ったらよいか、村人の中でも賛否両論あり、村長もどうすればよいか決めかねている。そこで、関係者に集ってもらい、村の未来について考えるために話し合いをすることになった。

(1) 役割を割り振る。

役割の数に応じて、任意に学習者に役割を割り振る。参加者にこの問題についてどんな役割があるか挙げてもらい、全体で役割を考えてもよい。

(2) 役割にあった主張をする。

役割のグループ毎に調査や話し合いをして、会議で主張する内容を準備する。自分の役割に有利な情報を集めて、作戦を立てる。

(3) 会議の司会者役は公平な立場で司会を行う。

一方の意見に偏りすぎないように注意して話し合いを進めるようにする。

(4) 振り返りを行う。

最後に役を離れて、わかったことや、感じたこと、考えたことなどを話し合う。そして「海辺村」の人たちが幸せになるにはどうしたらよいか、また持続可能な社会をどう創っていったらよいか話し合う。

〈留意事項〉

○参加者を全員に役割を振ってロールプレイを行うこともできるし、何人かを会議を聴く住民として参加させることもできる。

○ロールプレイの目的や条件設定も変えることができる。例えば「これからのエネルギーをどうしていくのか」「原発は廃止すべきか」などロールプレイを通して考えたいテーマを設定できる。その際、(応用編1)の中から役割を増やしてもよい。

○(応用編2)は、海辺村にすむカエルを擬人化したものである。生き物にすることで設定を単純化することができる。問題の論点がより明らかになると考えられる。

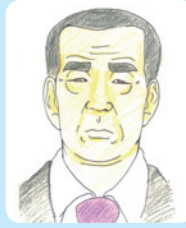
シミュレーション教材「海辺村の未来は？」(基本編)役割カード

農業に従事している村人



あなたは農業で生計を立てていたが、原発事故後、汚染された土地での農業はできなくなり、今は別の仕事をしている。避難区域にはならなかったが、家族は放射線の影響を心配して他県に避難している。汚染された土地を早く回復して家族とともにまた、農業を続けたいと願っている。

政治家



あなたは政治家である。この事故の責任は電力会社にあると思っている。何とかして海辺村を含む地域の復興のために支援は必要だと強く感じている。原発については経済発展のためには必要だと思っている。

漁業に従事している村人



あなたは先祖代々漁業で生計を立て、この村にずっと住んできた。海が汚染され、漁民たちが避難してばらばらになり、現在は漁業を続けることができなくなっている。しかし他の仕事を探すには不安が大きい。何とかして漁業を再開したいと願っている。

首都圏民



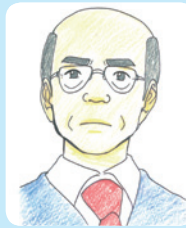
あなたは家族とともに首都圏に住み、働いている。原発事故で電力の供給が不安定になり一時生活が混乱したが、今はそんな心配もなくなった。海辺村の人たちのことは心配だが、健康のことを考えると、なるべく放射線の影響がないものを買いたいと思っている。事故の責任を電気料金に転嫁されるのは困る。

子ども



あなたは村の中学校に通う中学生。住んでいた村は避難区域になり、仮設住宅から仮の校舎に通っている。他県に転校した友達もいて、寂しく思っている。事故後外遊びや部活が制限されている。また、放射線被ばくの影響で将来の健康も心配だ。しかし、この村が大好きなのでこの村から離れたくないと思っている。

電力会社の社長



あなたは電力会社の社長である。事故後の対応に追われ大変忙しい毎日を送っている。この事故の責任は国にもあると強く思っている。賠償金は最低額に押さえ、国からの援助がなければ、自社の存続が危ない。なんとしても自社の利益と存続が優先である。

村を離れた村人



あなたは事故後海辺村を離れ、県外に住んでいる。放射線の影響が心配なことと、海辺村では仕事がないことが村を離れた理由である。海辺村にはたくさんの思い出があり、戻りたいが、今はこのままの生活を続けるしかないと思っている。

原発を推進する科学者



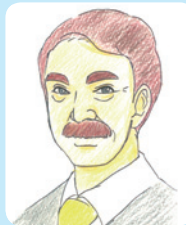
あなたは科学者である。今回の事故のことを調査しているが、人体に対する放射線の影響はまだはっきりしていないことが多い。放射線を除染さえすれば、住むことができると話している。科学の力は進歩している。次世代の原発設計も夢ではないと思っている。

ボランティアの代表



あなたはボランティア団体の代表である。事故後から村に入り活動を続けてきた。村民と協力して村の再生に力を貸したいと思っている。時間が経つにつれて事故に無関心になってくる首都圏民に支援活動を呼びかけたいと思っている。

工場の社長



あなたは首都圏で大きな工場を経営している社長である。事故後電力不足、電気料金の値上げに大変苦しんだ。原発なくしては経済が成り立たないと思っている。早く今停めている原発を稼働させてもらいたい。

海辺村の村長



ばらばらになった住民たちをもう一度海辺村に戻ってもらい、村の再生を果たしたいと願っているが、除染の問題は大きく、この先何年かかるかわからない。村に戻るべきか、あるいは別の土地に新しい村を創るのか、大変迷っている。

原発WG役割カード案（応用編1）

村人（村を離れた独身女性）

あなたは事故後村を離れ、他県に住んでいる。放射線被ばくの将来的な影響がとても心配である。村には父母や年老いた祖母が残っている。家族と一緒に暮らしたいが、村に帰りたいとは思わない。今は新しい環境でがんばって働きたいと思っている。

村人（村に残る既婚男性あるいは女性）

あなたはこの村を担うリーダー的な存在である。何とか除染作業を進めてもらい、村の復興に役立ちたいと思っている。そのために首都圏民や政府、外国の人々に今の状況を訴えたいと考えている。

村人（村を離れた既婚男性）

子どもが小さいので、放射線被ばくが心配で、家族で首都圏に移り住んだ。今は、家族を養うために働くしかないので故郷を思い出すゆとりがない。将来的な帰村には迷いがある。

市民団体

あなたは市民団体の代表である。原発事故直後から海辺村を支援してきた。事故から時間が経つにつれて、人々の関心が薄れていくことに危機感を持っている。何とか海辺村を忘れないでほしい、支援の輪を広げたいと考えている。

原子炉メーカーの技術者

あなたは原子炉を設計した技術者である。設計したプラントが破壊され大変落胆している。事故の原因を追及して、次世代型の原発を設計したい。

教員

あなたは海辺村の学校で働く教員である。自分の家も被災して心配事は尽きない。学校では、放射線被ばくを心配して、校庭での体育や栽培活動、校外学習が制限されている。これから子どもたちの学習の遅れを取り戻したい。

原発労働者

今まで、家族を養うために原子力発電所に長く働いていた。雇用主は労働者の健康を顧みないこともあり、将来的な病気への不安が大きい。事故後仕事がなくなった。これからどのように生きていったらいいのか悩んでいる。

マスコミ

あなたは原発事故の実態を正確に報道したいと考えている。今まで原発推進の報道に傾斜していたことを反省している。村の現状や、復興に努力する人々を取材し、多くの人に伝えたい。

原発WG役割カード案 かるバージョン (応用編2)

村長のカエル

人間が起こした原発の事故によって、カエル村の暮らしまで大きく変わらなければならず戸惑いと怒りがある。海辺村を離れるか、このまますみ続けるか、みんなの意見を聞いてまとめた。

おじいさんカエル

人間が起こしたという原発事故の影響は、ごくわずかであり、自然の力は雄大なので今までと変わらず暮らしていけると思っている。残された日々をのんびり海辺村で過ごしたい。

お母さんカエル

今までたくさんの子どもたちを育てて幸せに暮らしてきた。放射能の汚染が身体に影響するかもしれないと思い悩んでいる。できたら放射能の汚染のないところにすみたい。

お父さんカエル

カエル村のカエルの使命は、何よりも種の繁栄だと思っている。海辺村には池や田んぼがあり、住みやすいのでこのまま海辺村で後世が育つのを見守りたいと考えている。

青年カエル (若い女カエル)

今後の放射能による影響(特に子どもへの影響)が心配なので、今すぐ海辺村から離れて新しいところで生活するほうがよいと考えている。村の若者として、村のためなら精一杯力を尽くしたい。

働き者カエル

いつもみんなの食料を見つけてきたり、分配したりしている。新しいところでの食料探しや、ここに残るカエルたちの食料を探す役割を誰が担うのか不安である。村の分裂は避けたい。

子どもカエル

まだ小さいので原発事故の詳細はよくわからないが、友達のカエルたちが別の村に行ってしまった。一緒に遊ぶ友達が少なくなってさみしい。

物知りカエル

勉強家で何でも知っている。人間が、生物への放射能の影響はまだはっきりしていないと話をしているのを聞いている。人間が避難しているので、かえって自然破壊がくい止められ、今後はすみやすい土地になると思っている。

旅人カエル

海辺村の生まれではなく、たまたま原発事故が起きた時居合わせた。他の村のカエルから、「早く遠いところへ避難したほうがいい」と聞いている。お世話になっている海辺村のカエルたちにも避難してほしいと思っている。

おばあさんカエル

原発事故や放射能についてよく知らないため、判断ができない。人間にはいつも村の平和を乱されてきたので、何をしても無駄だと思っている、無気力になっている。